

ピアノが愛した女。

SUPER FOLK SONG

ピアノが愛した女。

[2017 デジタル・リマスター版]

矢野顕子 インタビュー出演 鈴木慶一 谷川俊太郎 糸井重里 三浦光紀 宮沢和史 David Rubinson (出演順) 監督 坂西伊作

新宿バルト9ほか全国の劇場にて

2017年1月6日(金)より15日間限定ロードショー

東 新宿バルト9
京 03(5369)4955

大 梅田ブルク7
阪 06(4795)7602

愛 センチュリーシネマ
知 052(264)8580

福 T・ジョイ博多
岡 092(413)5333

北 ユナイテッドシネマ札幌
海 0570(78)3011
道

カバー・アルバムの名盤『SUPER FOLK SONG』

ピアノと唄だけの“一発録”レコーディング

極度に緊迫した空間で矢野顕子の一挙手一投足を余すことなく捉えた音楽史に残る伝説のドキュメンタリー・フィルム。

現代技術でレストア&リマスタリングされ四半世紀の時を経て、期間限定劇場上映



1992年、矢野顕子が新たなチャレンジとして選んだのが、生演奏をノーカットで録音した『SUPER FOLK SONG』だった。観客のいないホールでグランドピアノに向かい、新旧の名曲を歌う彼女を捉えた名盤だ。その制作過程にカメラが入り、容赦なく素顔の彼女を追いかけた。それが、スーパー・ドキュメンタリー・フィルム『SUPER FOLK SONG』だ。24年ぶりにデジタル・リマスターされ公開される映像と音像は、生々しきまでに当時を蘇らせている。

『SUPER FOLK SONG』の制作は、'92年2月、東京・千駄ヶ谷の津田ホールと、長野県松本市のザ・ハーモニーホールで行われた。真冬の松本でもノイズが入るからと空調を切り、お湯で手を温め白い息を吐きながらの録音・収録だったそうだ。

1976年のソロ・デビュー以来、リトル・フィートにイエロー・マジック・オーケストラ、パット・メセニーなど国内外の一流ミュージシャンと演奏し高い評価を得ていた彼女が、すっぴんのような作品を作ったのは何故だったのだろう。振り返って矢野が言う。「弾き語りで(アルバムを)出したのは、これが初めてじゃないかな。今はピアノだけの矢野顕子の作品は、ある程度の評価があるでしょ?でもそういうことになる前だったので。おそらくこれで、できた」

ライブでは一人でピアノの弾き語りをやる“出前コンサート”もやっていたけれど、レコーディングは違う。

「陶芸家が土を練って、窯で焼いて、出して、“ダメだ、ガチャーン!”みたいなことしてるのがレコーディング。その中で一番いいものをお出しするのがライブであって。

“ダメだ、ガチャーン!”は自分のためだから」

その“ダメだ、ガチャーン!”をカメラは冷静に捉えていく。苛ついたり落ち込んだり、試行錯誤を繰り返して、最後に笑顔を浮かべる。レコーディング・エンジニアの吉野金次は彼女のペースに合わせて忍耐強くテープを回し、マネージャーは優しく言葉をかけて彼女の緊張をほぐす。その姿もカメラは逃さない。

「私の音楽が生まれる場を、本来はひとに見せるべきではないというか、見せることが頭の中にならぬ。それを撮るのは監督の坂西伊作の仕事。私は自分の音楽を作ることをするだけ。だから彼らのためにサービスすることは一切やっていない。でも彼は、それを撮りたかったって。あの時代の、若さであり、力であり。それをパッケージとして、フィルムに収めたことが、素晴らしいですね。だって、二度と撮れないもん。見てる人も一緒に、“あ〜”とか“できた!”とか、一緒に楽しんでもらえるから。面白いよ!って言える。ものを作るひとだったら、共感してくれるところは、多々あるんじゃないかな」

今ならもっとリラックスしている、と笑う彼女だが、作品に向かう厳しさは変わらない。凛としたアーティストの姿勢が見える、貴重な映像作品だ。(今井智子)

アルバム『SUPER FOLK SONG』

あがた森魚、山下達郎、佐野元春、大貫妙子等のカバーを中心とした、ピアノ弾き語りアルバムの第一弾。矢野顕子の世界が広がるカバーを超えたカバー集。

映画『SUPER FOLK SONG〜ピアノが愛した女〜』の楽曲を収録。[92年作品]



映画使用楽曲

- SUPER FOLK SONG (糸井重里のカバー | 作詞:糸井重里 作曲:矢野顕子)
- 横顔 (大貫妙子のカバー | 作詞・作曲:大貫妙子)
- 夏が終る (小室等のカバー | 作詞:谷川俊太郎 作曲:小室等)
- それだけでうれしい (THE BOOMとの矢野の共同名義による曲のカバー | 作詞:矢野顕子 作曲:宮沢和史)
- 焔の上で (はちみつばいのカバー | 作詞・作曲:鈴木慶一)
- 中央線 (THE BOOMのカバー | 作詞・作曲:宮沢和史)
- PRAYER (オリジナル | 作詞:矢野顕子 作曲:Pat Metheny)



矢野顕子 プロフィール

世界的ミュージシャンであり2児の母親である矢野顕子。中学卒業後、青森より単身上京。高校の時からジャズバーで演奏を始め、その類稀な才能が認められ、数々のレコーディングに参加。76年にはソロデビュー。YMOでの活動など、世界を飛び回り、90年から音楽の拠点をNYへ。独特な歌声と天才的な演奏は唯一無二の個性として、オリジナルアルバムを含め数々の作品を世に放ち、ソロワークは勿論のこと、今もなお多岐に渡るセッションと世界中のミュージシャンから愛される稀有な存在として活躍。そして2016年、ソロデビュー40周年の記念の年を迎え、11月30日にはオール・タイム・ベストアルバム『矢野山脈』発売、恒例のTIN PAN (細野晴臣/林立夫/鈴木茂)との「さかええるコンサート」で12月に全国5都市をツアーするなど精力的に活動をおこなっている。

矢野顕子 コメント

「当時の事を思い出すと、少々照れくさい気持ちになりますが、改めて作品を眺めると40年の活動の中でこの作品は、いまの自分造りの大きなターニングポイントになっていたのだと感じる映画でした。レコーディングの中で失敗したり、成功したりする私を覗いて、ぜひ観客の皆様も、一緒に曲を作っているのようにお楽しみ頂けると嬉しいです。」

【全国共通劇場鑑賞券】全国の劇場、メイジャーWEB通販、チケットぴあ(セブン-イレブン、サークルK・サンクス、チケットぴあのお店)ほかにて発売中。

【価格】前売券 | 1,900円(税込) ※劇場窓口、メイジャーWEB販売では前売特典付 当日窓口料金 | 2,300円均一(税込) ※各種割引なし 前売特典は、数に限りがございます。無くなり次第終了とさせていただきます。チケットぴあ Pコード:466-900

矢野顕子『SUPER FOLK SONG〜ピアノが愛した女〜』[2017デジタル・リマスター版]公開記念 東京・大阪・名古屋限定、先行プレミア上映! 矢野彰子、25年ぶりの舞台挨拶。

名古屋	12月13日(火)	19:30~	センチュリーシネマ(名古屋)
梅田	12月15日(木)	19:30~	梅田ブルク7
新宿	12月22日(木)	19:30~	新宿バルト9

販売価格 | 2,500円(税込) ※特別価格になります。全国共通前売鑑賞券はご使用できません。 ※チケットぴあにて販売(Pコード:556-268) ※当日、予告なく変更になる場合がございます。 ※また都合により、ご本人の登壇が中止になる場合もございます。 ※販売方法等その他詳細は、映画公式サイトまで。